

# Die Eiche

ディ アイヘ

<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche  
Gesellschaft der Präfektur  
Chiba

〒270-2214松戸市松飛台556-12  
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

## 2025年度年次総会 専務理事兼事務局長 植松 健

2025年度千葉県日独協会年次総会が、5月10日(土) 15時半より船橋市中央公民館第四集会室にて、昨年に引き続き対面方式にて開催されました。会長の挨拶に続き、議長に志賀顧問が選出され、前段階として4月12日(土)に対面方式にて開催された理事会の審議を経た事案について厳正に審議され、第29回年次総会議案は規約第十条第3項の規定に基づき、多数決にて原案通りすべて承認されました(会員数120名の内有効議決者数は、議長を除く当日出席者45名、委任状27通計72名)。



### 千葉県日独協会総会議案書 (承認済み)

#### ■ 2024年度(令和6年度)事業

##### 主な会議

運営委員会(対面式1回、他すべてオンラインにて)、理事会(書面表決方式)、年次総会(2024年5月18日、会場:船橋西部公民館)

##### 主要行事

###### ● 定例行事

総会記念講演会、ドイツ軍人慰霊祭、新春講演会

###### ● 文化教養行事

ボトルシップ研究会、ドイツ語講習会、ドイツ語入門研究会

###### ● 青壮年部会主催行事

オンライン講演会 7月&12月(ドイツ歴史研究会)、ドイツ史及びドイツ時事問題に関するオンライン懇談会、ドイツの街紹介をDie Eicheに連載(ドイツ地誌研究会)

● 菩提樹委員会(JR津田沼駅南口再開発やDIC川村美術館閉館に伴う、日独友好150周年時に植えた菩提樹の新移植先選定過程における積極的フォロー)

● 習志野第九演奏会後援(2024年12月14日)

###### ● 特別行事

市川ドイツデー後援並びに参加、習志野ドイツフェア&グルメフェスタ参加、船橋市民活動FACE5階に協会活動写真の展示、ドイツ語園研修旅行準備、創立30周年(2026年)に向けての準備

###### ● その他特別行事

Akablas(ブラウンシュヴァイク工科大学吹奏楽団)コンサートツアーサポート(11月5日、会場麗澤大学)、デュッセルドルフ奨学生歓迎会(10月22日)、習志野市制70周年記念式典出席(10月26日)

● 協会通信「Die Eiche」:編集委員会を開催し、偶数月年6回(No148~153)発行

● 協会ホームページ運営、管理:ITの積極活用継続確認

● ベルリン開催の「日独パートナーシップデイズ」へ山本理事派遣、現地では大野理事がスタッフとして協力

#### ■ 2024年度(令和6年度)決算及び監査報告

**一般会計実績:** 収入の部合計2,295,573円、支出の部合計709,037円、次期繰越金1,586,536円、・特別会計実績(日独友好交流基金):収入の部合計980,142円、支出の部合計132,930円、次期繰越金847,212円の決算となり、監事の適正を認める監査報告書も添付され承認されました。

#### ■ 2025年度(令和7年度)事業計画

##### 主な会議

運営委員会(毎月)、理事会(書面)、年次総会(対面式)、記念講演会・懇親会(5月10日実施)

##### 主要行事

● 定例\*文化教養\*特別(各行事とも従来実施してきた行事及び新企画を計画)

● 協会通信「Die Eiche」は編集委員会を開催し原則偶数月年6回発行予定。

● 全国日独協会連合会総会(4月24~25日実施)

● 独日協会アムニダーラインとの交流、千葉県国際課との連携強化

● 創立30周年(2026年)に向けての準備開始

● 青壮年部、運営委員会と連携して、会員の入会促進活動強化

#### ■ 2025年度(令和7年度)収支予算

##### 一般会計予算

収入の部合計2,068,636円、支出の部合計775,000円、次期繰越金合計1,293,636円・

##### 特別会計予算

収入の部合計1,024,712円、支出の部合計217,000円、次期繰越金807,712円合計にて予算が承認されました。



総会会場の様子



質疑応答/南木会員

### 役員 (任期 24/4-26/3、青字は、運営委員)

名誉会長	宗宮 好和	金谷 誠一郎	
会長	木戸 裕		
専務理事兼事務局長	植松 健		
常任理事兼会計担当	本橋 緑		
常任理事	勝見 浩明	坂田 博	竹内 優
	土屋 有里	本間 美里	
理事	秋草 史幸	石元 成子	大野 巨児
	岡村 三郎	小原 陽子	神田 基成
	木戸 芳子	木戸秋 圭一	草本 晶
	桑原 純子	笹生 健司	佐藤 守彦
	田草川 敏朗	中村 孝子	成田 久江
	藤川 義弘	保坂 有里奈	堀江 弘隆
	松浦 一	松江 美代子	宮藤 宏
	三輪 瑛	室田 真由見	山田 浩輝
	山本 久瑠実		
監事	中野 泰行	湯浅 正人	
顧問	ラルフ・ベルズツッケ武官(ドイツ連邦共和国大館ドイツ空軍大佐)		
	石原 由尊(陸上自衛隊第一空挺団長兼習志野駐屯地司令陸将補)		
	林 節子(清和会理事長)		
	志賀 久徳(千葉県日独協会)		
	吉川 三朗(千葉県日独協会)		
名誉会員	伊藤 光昌	須古 正恒	杉田 房之

## ご挨拶

### 2025年度総会開会にあたって

#### 会長 木戸 裕

皆様こんにちは、会長の木戸 裕です。昨年（2024年）5月、金谷 誠一郎会長のあとを引き継ぎ、会長の重職を担うことになり、早いものでもう1年になります。会長に就任し改めて思いましたのは、千葉県日独協会は、さまざまなバックグラウンドをもった会員、お一人おひとりの皆様の善意による、暖かいボランティアの精神によって支えられた団体であるということでした。



すでに皆様、ご案内のとおり、私どもの千葉県日独協会は、その創設にあたりまして、ドイツ人俘虜収容所と大きくかかわっています。俘虜収容所と申しますと鳴門にあった収容所が有名ですが、私どもの習志野市にも、第一世界大戦中、中国で捕虜となったドイツ人兵士を収容した俘虜収容所がありました。習志野霊園には、当時蔓延したスペイン風邪がもとで収容中に命を失ったドイツ人兵士を弔う慰霊碑があります。千葉県日独協会は、毎年11月のドイツ「国民哀悼の日」に合わせて、収容所で亡くなったドイツ兵士の慰霊祭を開催することを目的の一つとして、1996年に設立されたという経緯をもっています。

慰霊祭も昨年、第30回目を迎えました。昨年は、フート首席公使、ペルジック大使館付武官をはじめ、自衛隊習志野駐屯地、千葉県、習志野市、地元高校オーケストラ部、地元自治会など、各方面から多数の方々のご参加を得て行われました。われわれの活動は、高校の歴史の教科書（清水書院）にも取り上げられており、われわれの活動に教育的意義も認めてくださりうれしく思っております。

地元高校と申しましたが、津田沼高等学校オーケストラ部の生徒さんには、昨年も山岡健先生の指揮のもと、素晴らしい演奏をお聞かせくださいました。その山岡先生がこのたび、当協会の会員になってくださり、本日もお越しいただいております。また、長年駐日ドイツ大使館にご勤務され、慰霊祭にあたりまして、大使館と当協会の間に立って、たいへんお世話になりました青山彌紀さんは、昨年、大使館をご退職されたのを機に、当協会にご入会くださりまして、本日は、このあと「ご講演」をお願いしています。

ところで、来年（2026年）は、当協会の創立30周年になります。30周年に向けてどんな行事を実施するか、運営委員会で話し合っているところです。皆様からも、ご提言などをいただけますと幸いです。なお昨年3月3日にお亡くなりになりました第2代会長、故平尾浩三先生の奥様から多額のご寄付をいただきました。運営委員会では、目下その使い道を検討しておりますが、案としまして協会の旗を制作したいと考えています。20周年では、協会のバッジを作成しましたが、30周年では「協会旗」を制作し、協会の行事に掲げ、会員団結のシンボルとするともに、協会の発展に大きなご功績のあった故平尾先生を偲びたいと考えております。皆様のご賛同をいただけますと幸いです。

協会では、慰霊祭だけでなく、昨年度も多彩な活動を行ってまいりました。その詳細につきましては、このあと植松健専務理事兼事務局長よりご報告させていただきます。また、隔月に発行しております当協会の機関誌『Die Eiche』にも、協会行事の詳細を随時掲載いたしますので、ご覧いただけますと幸いです。なお『Die Eiche』は、協会のホームページに、創刊号から最新号まで搭載しています。

なお、当協会の特色として、金谷前会長がご在任中とくに力を注いでこられた青壮年部の活動があります。活力をもった前途洋々たる若者が、人生経験豊富で、多彩な知見をもっておられる年長会員と力を合わせて、将来を見据えたさまざまな興味深い企画とその実施に意欲的に取り組んでいます。会員の皆様におかれましては、青壮年部の活動にも、どうかご理解と積極的なご支援を賜りますようお願い

いたします。

会員の皆様が当協会に寄せる「期待」「思い」はさまざまです。皆さんのお考えが必ずしも同じという訳ではありません。そのなかで、私としましては、昨年の就任時のご挨拶でも申し上げましたが、会員同士の楽しい「出会い」と「交流」を通して、皆様が「千葉県日独協会に入会してよかった」という実感を抱いていただける、そういう会を目指して及ばずながら努めてまいります。

今後とも何卒よろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本日は皆様、ご多用中のところご出席いただき誠にありがとうございます。

（本稿は、総会での「会長挨拶」の内容を文章化したものです）

## 総会記念講演「文化をめぐる冒険」を聴講して

常任理事 勝見 浩明



今年度の総会記念講演には、これまでドイツ大使館に勤務なされ協会との種々の活動で連携協力くださり、現在は、合同会社TIC代表でおられる青山様（当協会会員）をお招き、これまで築かれたご経験から今後の協会、あるいは個人に向けて新たな視座を得られると思い、期待に満ちて参加致しました。

最初、青山さんのプロフィールがご紹介されました。東京大学にて中国語クラス、倫理学、生命倫理を熱心に取り組まれた後、福祉の国デンマークで言語習得にチャレンジ、デンマークでの言語獲得にご苦労なされた後、ドイツに渡り、ドイツで哲学・倫理学を追求なさいました。

私の聞き手の解釈としては、学生時代の「異文化」という観点で文化の違いについてどう対処するのか、折り合いをつけるのかという視点における「文化」が語られているかと思いましたが、この「文化」の言葉の持つ意味の広さが、青山さんの講演を通じてもっと広い意味を包括していると思えました。

つまり、「文化」との交流については国レベルではなくとも身近な様々な集団で発生している。それは、青山さんのこれまでのご経験の中でご説明がありましたが、異なる大学機関の研究分野で統合的な研究を促進しようとして接点構築を試みたが、各々の研究分野で双方の異なる、受け入れられない点を非難しあう。相違点に対する折り合いをどうつけるかという分析を外部調査会社に依頼してその結果を研究材料にするのは、興味深かったです。

「文化」の相違があらゆるところに存在している論調は、とても共感致しました。最小ユニットであろう個人、家族から、会社内組織、研究機関における研究ユニット、また、「文化」は、時代とともに変遷することも紹介されていまして個人レベルの「文化」も時とともに変容するであろうと捉えました。

実際、自分が会社で担っていた部門の業界では、業界同士の会合でなにか物腰、捉え方、顔の雰囲気まで似ていると思っていました。業界レベルではなくても、私自身、様々な部門で勤務（商品企画、デザイン、開発、品質保証）、それぞれの部門の文化、職場の雰囲気は部署ごとに異なっていました。

青山さんの体験にも紹介されましたが、ドイツ大使館時代に各地の日独協会、自衛隊との交流もあったが、それぞれ組織ごとに「文化」が存在していたというエピソードは楽しかったです。

更に、同時に一定のまとまりで時系列的に言語、文化、宗教などのくりで「文化」が形成、それは、言わば、人工的に形成された国家とは異なる住民意識という点では、これまで衣笠先生の講演でも取り上げた「国家意識と住民式」との乖離でも説明がつけられると思えました。

青山さんの「文化」の全体を通して考察すると、「文化」の生成過程は、何らかの思惑で成立するのではなく、時系列的に自然に形成されていくのではないかと解釈しました。したがって青山さんが、懸念されていた点、例えば、政治思想的なくりで「文化」と位置づけ組織の観点で拡大傾向する場合は、注意が必要というご説明は理解できました。「文化」の違いをどう解釈してproactivelyに臨むのか。示唆に富む講演でした。



会場内における筆者



記念講演会終了後の集合写真

## 懇親会

今年の講演者、青山蘭紀氏は、昨年までドイツ大使館に勤務され、「ドイツ軍人慰霊祭」においてもドイツ側代表通訳をして凛々しい姿で対応されておりました。会員の1/3程度が参加されました懇親会参加者メンバーで昔のことを思い出された方も多かったのではないかと思います。懇親会の際は、初参加の自己紹介の場でもあり、これまで各種懇親会に未参加の方は、次回ぜひ。(常任理事：坂田 博)



# 2025年度 新規運営体制 文化・教養活動と今年度の企画について 常任理事 土屋 有里

昨年度より木戸会長のもと運営委員会には部会体制が発足し、業務の活性化が進められています。「文化・教養」担当を拝命したことを機に、当協会における文化・教養活動について改めて考えてみたいと思います。



まず、「文化」「教養」とはなんでしょうか。事典によると、「文化」とは「人間の生活様式の全体。人類がみずから手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝承されるとともに、相互の交流によって発展してきた。」とあります。また、「教養」とは「学問、幅広い知識、精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力。また、その手段としての学問・芸術・宗教などの精神活動。」とあります。(デジタル大辞泉「文化」「教養」より抜粋引用)

これらを当協会活動で扱うにあたり、私が大切だと考えることは次の3点です。

- ☆ 体験する：文化を知るには実際に体験することが大切。まずは自分の感覚を通して体験していただきたいと思います。
- ☆ 交流する：交流することで互いの感覚や背景の違いを発見したり理解したりできるのではないのでしょうか。できるだけ講演者との交流や参加者同士の交流の場を設けたいと思います。
- ☆ 気軽に楽しむ：会長のモットー「ドイツに興味をもたれ、千葉県日独協会の活動にご関心をお寄せくださる方々が、年齢、職業、その他バックグラウンドを問わず、どなたでも気軽に参加でき、会員の皆様すべてが、千葉県日独協会の会員になってよかったと思っていただける会にしたい。」(ホームページより)にもあるように、気軽に参加でき、楽しめる活動を目指します。

このようなスタンスで、今年度は音楽講演会を企画しました。「歌」を題材に、伊日独の愛情表現の違いについてお話と演奏を楽しんでいただきたいと思います。皆様お誘い合わせのうえ是非ご参加ください。

- 日時：2025年8月16日(土) 16:00-17:30
- 演題：「歌で巡る愛の形 ～イタリア、日本、ドイツ、三者三様の愛情表現～」
- 会場：船橋市中央公民館音楽室
- 講演&演奏：土屋実穂(ソプラノ、当協会会員)、土屋有里(ピアノ、当協会常任理事)

これからも会員皆様からのご意見ご要望をお伺いしながら進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

# ドイツの街紹介

## Nürnbergに泊まりBamberg そしてBayreuthへ

顧問 志賀 久徳

今回は、定年後に自由になって何回にも分けてドイツ16州の主要な町を車で旅した中で、バイエルン州ではミュンヘンに次いで二番目に大きな町のニュルンベルクに宿泊し、そこから約50キロ北に位置するバンベルクとバイロイトを訪ねた思い出の旅を紹介しします。



ニュルンベルク方面の高速道路

人口50万余りのニュルンベルクのイメージは、私のような団塊の世代には第2次世界大戦後に行われたナチ戦犯に対する「ニュルンベルク裁判」が頭を過りますが、戦後が遠くなった今ではワーグナーの歌劇の方でしょうか。



筆者の奥に見える聖ロレンツ教会

旧市街の中心部は全長5キロにわたる城壁に囲まれ、レンガ色の建物や石畳の道は中世に迷い込んだ気持ちになるほどロマンチックな街並みです。約40年前の西ドイツ駐在当時に訪れた頃の街並みと大きくは変わっていませんが、当時は溢れていた日本からの団体旅行者、日本製のテレビ、自動車は殆ど見られなくなっていました。宿泊したビクトリアホテルの前を通るケーニヒス通りを中心部に向かって歩くとゴシック様式の聖ローレンツ教会があり、さらに進みベグニッツ川を渡れば中央広場に出ます。中央広場には「美しい泉」があり、その鉄柵には金色の小さな輪がはめ込まれていて、回すと願いが叶うとの言い伝えから、私もトライしてみました。広場の北には旧市庁舎、おもちゃの博物館、教会、カイザーブルク等が立ち並び、この城からは美しい街を一望することができます。



美しい泉の前で

年末には中央広場でドイツ最大級のクリスマスマーケットが開かれます。



中央広場前の景観

翌日、旧市街が世界遺産に登録されている美しい古都バンベルクへ向かいしました。レグニッツ川の中の島に建つ旧市庁舎と古い街並み、そして少し坂を登れば4本の塔を持つ荘厳な大聖堂がこの町の歴史を感じさせます。近くには新宮殿があり、庭から眺めたバンベルクの街は水の流れとクラシックな建物が調和していて素晴らしく、また、音楽の分野ではバンベルク交響楽団も良く知られています。



バンベルグの大聖堂

その後立ち寄ったバイロイトはワーグナーの音楽祭で世界的に有名な町ですが、それが開催される夏の時期以外は人口7万人程度の静かな町です。音楽祭の会場と



バンベルグの旧市街地

なるリヒャルト・ワーグナー・フェストシュピールハウスは市街から少し離れた所にあり、19世紀に建てられた世界最高の劇場の一つと言われています。町にはワーグナー博物館、リスト博物館等があり音楽の街の歴史が強く感じられます。



バイロイトのレストラン前

この旅はドイツの寒い時期でしたが、多くのドイツの人に連れ合い、現地を知り体験できたことが有意義でした。ドイツ好きの皆様で可能な方にはドイツの自由旅をお勧めします。

## 新入会員紹介 (城 宏和)

初めまして、浦安市在住の城(じょう)宏和と申します。ドイツに仕事(日本航空)の関係で94年7月~98年1月、19年5月から23年5月、計約6年半、主にフランクフルトに住みました。最初の駐在時は、シュベピッシュハルとボンで合計半年間、ゲーティンステイテュートで語学研修をしました。2回目の赴任で驚いたのは、ドイツ鉄道(DB)や鉄道で遅延、キャンセルが日常茶飯事になったり、荷物の配達時間が守られなくなったりしたことです。



しかし、人々は階層によらず、生活を楽しみ、豊かな様子は昔のままでした。教育も仕事も日本の方が長時間を費やしているのに、日本人の方が生活を楽しんでいるとは思えません。帰国して、改めてこの違いの背景を考えております。皆さんはどうお考えでしょうか？ドイツでは仕事柄各地の日独協会の方々と交流させていただきました。日本では皆さんと一緒に美味しいビールを飲めればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 今後の予定

### ■文化・教養活動 - 音楽講演会

歌で巡る愛の形 ~イタリア、日本、ドイツ、三者三様の愛情表現~

日時 2025年8月16日 16:00-17:30  
会場 船橋市中央公民館音楽室  
講師&演奏 土屋 実穂 (ソプラノ、会員)  
土屋 有里 (ピアノ、常任理事)

## 会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事、バイエルンストゥーベ by ダンケ  
新入会員 伏木 宏奈 千葉市

## 編集後記

今回の会報誌は、No.155を迎えました。私が前任の田中編集長より引き継いだ号は、No.113となります。No.118(2018/12)において「Die Eiche 読者意向調査結果」を報告いたしました。7年経過しました。この間、誌面の執筆は、編集委員の方が積極的にご参加くださり、制作スタイルは定着しました。今回の誌面を最後、確認しますと、ドイツの街紹介というコーナーがあります。このコーナーは、これまで実際にその場所に行った経験、そこで経験したことが情報価値ということで志賀顧問に長らくご寄稿くださり、最近南木会員も執筆くださっています。伝統になりました。ドイツでの滞在経験おありの方、是非、投稿くださいますと幸いです。冒頭の会長ご挨拶にもありますが、会員の皆様の知見を誌面にも反映していきたいと思っています。読者意向調査も30周年に向けて検討したいと思います。勝負